

さらり

酒田市農業委員会報 No.36



「平田赤ねぎの収穫」 ～平田地区～

特集

活力ある酒田農業を目指して (2面)

「あねちゃまめ」&「酒田まめほの香」 (3面)

～ 新たな特産品のデビュー ～

実りの秋に収穫の喜びを (4面)

～ 次代を担うさかたっ子が農業体験 ～

農業委員会レポート (5面)

新規就農者の紹介 Fresh Farmer はじめの一步 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

農業一筋 短信 (7面)

酒田の“旬”を食す 一秋一 (8面)

26年 秋季号

特集

活力ある酒田農業を目指して

—市長に「建議書」「要望書」を提出—

農業委員会では、農業現場の声を本市農業政策に反映させるために、九月一七日、市長へ「建議書」「要望書」を提出しました。

作成にあたっては、広く農業者、農業関係団体等の意見を集約し、取りまとめました。

建議、要望の内容については、次のとおりです。

要望内容(抜粋)

○高食味の良質米生産や飼料米

の多収に向けた、水田の土壤

改良剤散布への助成

○生産者が地域に合った売れる

作物づくりに取り組めるよう、

確実性があり、量もこなせる

施設としての庄内バイオ研修

センターの拡充

○自然災害へのきめ細かく素早い

支援条件を緩和した対応と、

老朽化した施設への支援条件

の緩和

○酒田市の友好都市、武蔵野市

や新たに展開予定のアンテナ

ショップへの酒田の魅力の発

信とPR

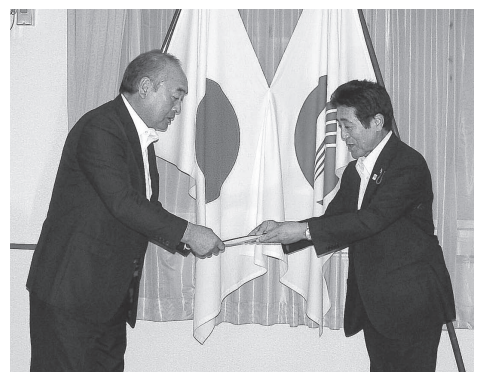
緊急要請書を提出

同日、米価の下落に関する対

策について、市長と市議会議長

に緊急要請書を提出しました。

米価変動に対する経営安定対



市議会議長に対し緊急要請書を提出

平成26年度 建議の骨子

1. 農地中間管理事業の推進

- 中山間地等の条件不利農地の現状を把握し、実態に即した効果的な施策等を検討する。
- 市町を越えて耕作する農業者が不利益を被らないよう他市町との連携協力を推進する。
- 農地情報の把握・管理主体としての農業委員及び事務局の適正かつ円滑な業務執行のため体制の整備強化を図る。

2. 中山間地の抱える諸問題

- 数量払いの交付金制度にあっては、一律の基準単収から地域の実状に合った段階的な基準を設けるなど検討する。
- 中山間地域等直接支払交付金の有効活用が図られるよう相談機能の充実を図る。
- 条件不利地の作業軽減のために、小規模区画農地の畦畔除去や棚田法面のステップ敷設などの農地整備を図る。
- 草刈り作業の負担が大きいため、法面草刈り機やトラクター装着の草刈り機の導入に支援を検討する。

3. 担い手育成、確保と支援の確立

- 新たな技術の習得や経営拡大に取り組む農業者が、小人数のグループや個人でも研修できる支援策を図る。
- 水稻副産物としての粕殻や異業種の視点をとらえた育苗床土の開発等により、労働コストの負担軽減を図る。

4. 女性農業者の育成等

- 酒田農業の魅力アップと情報発信を図るため、アグリサポーター（仮称）の設置を検討する。
- 地域活性化のため、また、女性農業者の活動の場との視点からも農業青年を対象とした婚活事業の継続を図る。
- 女性農業者の斬新でしなやかな発想が反映できるように、様々な会議等の場に積極的に参画できる環境を整える。

5. 農林水産業関連の各種機能を併設した「道の駅」の設置

- 6次産業化やグリーンツーリズムの推進による農業振興を図るため、直売施設や農家レストラン等を併設した「道の駅」の設置を検討する。
- 直売施設等の併設に伴い、コーディネートや支援する人材の確保と常駐させる体制を検討する。

6. 山砂採取の再考を

- 造成後の植林は、防風防砂対策にできるだけ早くその効果を発揮できるよう検討する。
- 砂防林の育成は長い年月を要するが破壊は一瞬であることを踏まえ、県や関係団体と連携しながら将来像を示すよう検討する。

建議書、要望書、緊急要請書を市長に提出



策、備蓄米の確保や米の多用途利用に向けた政策と米の需要を喚起する対策について要請したものです。

「あねちやまめ」&「酒田まめほの香」

～新たな特産品のデビュー～

命名者に記念品が贈られました



本市では、おいしい農産物の新品種開発に向けて、研究を重ねてきました。そして、開発されたのが枝豆「アベチャ33」と糯米「酒田糯14号」です。

また、この二品種を酒田の特産品として定着させブランド化を図るために、多くの方から愛され親しみやすい名称を公募しました。

その中から「あねちやまめ」と「酒田まめほの香」というすばらしい名称をつけることができました。品種の特性を表現した酒田らしい・庄内らしい名前です。

「酒田まめほの香」

庄内バイオ研修センターでは、センターの育成品種である「酒田女鶴」※の原種の生産を行う一方で、水稲新品種の開発にも取り組み、平成一九年から研究を重ね、開発された新品種の糯米が「酒田糯14号」です。

酒田女鶴と紅香を交配させた結果、それぞれの特性である「こし」の強さときめ細やかな舌触りに加えて、枝豆に似た香りをもつことが特徴です。平成二六年に酒田市の農林水産省に品種登録申請しました。酒田女鶴に香りがついたことで、幅広い用途での使用が期待されています。

※「酒田女鶴」は、その親である「女



酒田糯14

鶴」の品種改良により作られた新品種。「女鶴」は栽培面での難しさがあったため、庄内バイオ研修センターで、品種の開発に着手し、その結果、1mほどあった丈の長さを85cm前後に縮め、収量も増加させることに成功し、平成一三年に「酒田女鶴」の品種登録が認められました。



庄内バイオ研修センターの地域特産農作物の改良・開発事業における「大豆・枝豆の品種改良」の一環として、酒田市の平成一五年度から山形大学農学部研究委託を行い、開発されたのが「アベチャ33」です。

阿部利徳

「あねちやまめ」

教授（現客員教授）が開発した新品種の枝豆「アベチャ33」は、平成二一年に山形大学が農林水産省に品種登録申請し、平成二五年に登録が認められたものです。

「アベチャ33」は、良食味で粒はやや大粒なので食べ応えがあり、収穫期も遅めのため、生産現場においては、枝豆生産期間の幅の拡大が期待されています。

実りの秋に収穫の喜びを

＝ 次代を担うさかたっ子が農業体験 ＝

食育交流活動事業がスタートして八年目を迎えました。この事業は、農業者が市内の保育所、幼稚園や小中学校の児童や生徒と農業体験を通して交流を行うものです。

今年も、市内各地で実施しています。実りの秋を迎えての収穫体験の様子をご紹介します。

つや姫刈り体験

九月二十九日、中平田地区農振協議会（会長 高

橋一郎）と土里夢の会（会長 関口友子）のみなさんが、市立浜田小学校五年の児童とつや姫の稲刈り作業を行いました。



麻ひもで結んで杭がけします

秋とは思えないほどの強い日

差しの中、額に汗しながら鎌を手に一生懸命刈り取りする子ども、途中でイナゴを発見して遊んでしまう子どもと様々です。また、「口よりも手を動かして」と先生の声もかかります。

子どもたちは「稲刈りをするのは初めてで楽しい」「ご飯大好き」と目をキラ



鎌を手に丁寧に刈り取ります

キラらせて答えてくれました。五月の田植えからこのほ場で作業を行ってきた子どもたち、米ができるまでの体験を通して食物を大切にすること、みんなで協力し合うことの意味を知ったようです。

（農業委員 千葉 明）

サツマイモの収穫体験

本楯保育園の園児たちが一月一五日にサツマイモの収穫体験を行いました。どろんこ遊びも織り交ぜての楽しい収穫の始まりです。みんなで力いっぱい引っ張りあげたサツマイモに、

「わーい大きい」と歓声が上がります。

私がこの交流を始めて一〇数年。ほかにもトウモロコシやミニトマト等の生育と一緒に観察しながら、子どもたちが野菜を好きになることを願って交流しています。

体験後は、サツマイモで作った私のオリジナルスイーツ「いいも棒」のおやつに舌鼓。

（農業委員 村上淳子）



「ハイ、サツマイモ！」と収穫を喜ぶ本楯保育園児たち

農業委員会 活動レポート

サツマイモの栽培で 農地の有効活用を

農業委員会では、耕作放棄地の解消と農地の有効活用を図るため宮野浦地区でサツマイモの栽培に取り組んできました。

今年も宮野浦地区の畑でサツマイモ（紅あずま）を栽培しました。五月には、肥料散布後に定植作業を行い、七月には除草作業を実施しました。

そして、一〇月一八日、いよいよ



作業の始まりは肥料散布から



豊作を願いつつの定植作業

よ収穫の時を迎え、農業委員総出で実りに感謝しつつ、心地よい汗を流しました。

農林水産まつりでは、ホクホクの焼き芋の試食と、サツマイモの販売を行い、市民に農地の有効活用をPRしました。

（佐藤六雄委員）



収穫の喜びはひとしおです

一〇月一〇日に会報委員会の視察研修を行いました。

今回は、東京都江東区にある全国農業新聞の印刷工場を会場に、新聞ができて上がるまでの工程の見学や、全国農業会議所の方から農業委員会だよりの重要性や編集ポイントの説明を受けました。

* 研修報告 *

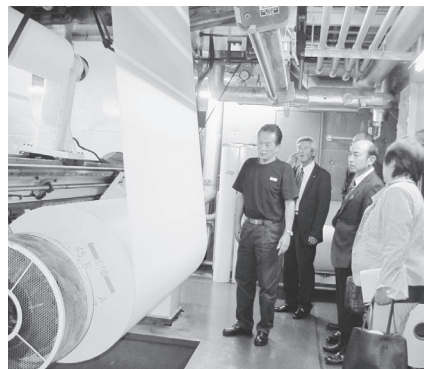
◆全国の農業委員会で発行している会報を見せていただきながらの全国農業会議所の方による編集のポイント説明は、とても分かりやすく、大いに参考になりました。

今後、会報を編集していくうえで、生かしていきたいと思



全国の会報を参考に説明を受けました

会報の重要性を再認識 ~会報委員会視察研修~



新聞の印刷工程を見学

ます。また、形式にとらわれない構成も考えてみたいです。

農業委員活動の「見える化」が求められている中、地域の農家や消費者と共に歩む農業委員会の活動をお伝えしていくことの大切さを再認識しました。

◆ハイテクで、瞬く間に印刷されるスピード感に圧倒されました。輪転機と大きなロール紙が高速で回転すると、かなりの振動があります。一〇〇件に近い組織と媒体を扱っているそうので、トラブルへのバックアップ体制が万全に取られていることや、紙面への色の具合など印刷技術に対するこだわりなどに感心しました。

（会報委員会）

Fresh Farmer はじめの一步

～ 新規就農者の紹介 ～



松山地区

遠藤 久道・広道・正道 (左から長男、次男、三男です)

大規模経営に取り組む三兄弟

私たちは、両親と共に水稲10・5畝、枝豆4畝、カブ約13畝を栽培し大規模経営を実践しています。次男は就農して一〇年目、長男は四年目、三男は昨春から農業を始めた若手農家です。次男は二年間の社会人経験を経て就農。つや姫とはえぬき、七品種の枝豆や30坪の小玉スイカを栽培しています。つや姫は、特別栽培農産物の認証を受けています。「経験は何事にも勝る。両親が先生」と家族そろっての農業に魅力を感じています。

長男は六年勤めた後、二〇一一年春から就農しカブ栽培を導入。農業のポイントは天候と土とを考え、気象データから作業計画を立てます。農業に挑戦したいと思っていました。がんばった分だけ作物は応えてくれます。農地を拡大し農業に汗を流す両親の姿が三人の農業に対する思いを育みました。「おいしいものを作ることが農業の基本。これからのキーワードは販売力」を合言葉にコメはインターネットで販売、それぞれが別々のショップを開設し異なる顧客を開拓、販路拡大を目指しています。

「土作りを含めた循環型農業を実践し、付加価値をつけて安全なものを提供したい」と話す長男に、「農業は厳しいと言われるが可能性は大きい。若い力で盛り上げていきたい」と次男。「兄の発想力は柔軟で新鮮」弟の農業感覚や計画力には感心する」とお互いを評価しています。遠藤兄弟は、三人であることに力強さを感じ、今後も農業に挑戦し続けます。

かぜ

～若手農業者リレーエッセー～



私は就農して九年目になります。それまでは、会社員でした。農業は子どものころ、親と一緒に田んぼに行きカエル・ザリガニ・イナゴなどを捕まえ、遊びながら農作業を手伝う程度で、農業にかかわることは、あまりありませんでした。

そして、全く何も分からないまま農業をスタートしましたが、家族や周囲の方々の支えもあり、何とか農業をやることができている。す。

水稲・大豆・メロン・ストックなどの水稲中心の経営状況ですが、ここ数年にわたり、春は低温や日照不足、夏は高温障害、長雨、大型

農業と自分

落野目 山木 貴之

台風など、冬は大雪等に見舞われ、異常気象が起こりやすい環境となっており、自然を相手にしての農作業は、経験・情報・技術力が今後のポイントとなると思われます。それに加えて、米の低価格・TPP問題があり、どのような経営をするかを考えていかないとダメだと思えます。

また、生産者が精一杯、気持ちを入れて、おいしいお米・おいしい野菜・きれいな花を出荷することと、どんどん新しいことに向かってレベルアップすることが、大切なことだと思います。

今回この記事を書くことによって、自分がどのような農業をしていくかを改めて考え直した気がします。農業をやり続けるには、まだまだ学ぶことがたくさんありますが、今後も人とのつながりを大切にして、もう一度自分を見直し、地域に貢献できるように、楽しんで農業をしていきたいと思えます。

農業 一筋

平田地区・砂越

富樫 寛 幸 二夫妻
ミヨコ



農業委員がおじゃましてお聞きしました!

農業を営む寛幸さん(七七歳)とミヨコさん(七五歳)は結婚されて五五年。お二人で水稲と野菜作りを続けて来られました。直売所「めんたま畑」にオープンから一日も休まずに出荷しているのが自慢です。赤ネギ、ナス、葉物野菜、花、豆類など多品目を出荷しています。食味が一番のこだわりだそうです。有機肥料を使い、おいしい米や野菜を提供しています。平田地区では昭和五〇年代からニンニクが特産品の一つになりました。これがきっかけで始まったのが焼き肉のたれ作りで

す。以来、数年前までAコープ、めんたま畑、イベントなどで販売し、人気となりました。

また、自家製のニンニク玉を二十年近く愛飲しているせいか風邪をひくこともないというお二人。健康だからこそ、農業を続けられると言います。

富樫さん宅ですぐに目を引いたのがピカピカのラジコンヘリ。飛ばすのが寛幸さんの趣味とか。一方、ミヨコさんは「一番の楽しみは、充実した日々の生活」とにっこり。料理が得意で、家族からは、いつも食べたい物をリクエストされるそうです。

どうぞこれからも健康を維持されながら、お二人でおいしい野菜を私たちの食卓にお届けください。
(土田治夫委員)



短 信

農業委員選挙人名簿登録申請について

農業委員の選挙人名簿は、毎年一月一日現在で調整されます。申請書は、平成二十七年一月一日(土)まで郵送してください。

住所要件
平成二十七年一月一日現在で、酒田市に住所を有する方

年齢要件
平成二十七年三月三十一日に、満二〇歳以上の方(平成七年四月一日以前に生まれた方)

耕作要件
①一〇㍓以上の耕作業務を営む方(経営者)

②耕作業務を営む方の同居の親族または配偶者(耕作従事者)

③一〇㍓以上の耕作業務を営む農業生産法人の組合員・社員
※②、③については、年間六〇日以上耕作に従事する方です。

農地の参考賃借料について

農地の賃貸借契約【契約期間中包含む】においては、基本的に地主と耕作者双方で賃借料を

決めることになっています。

参考賃借料は平成二十二年一二月の農地法改正により、地主と耕作者の話し合いの上、双方の合意により決定していただくための飽くまでも参考指標であることを、ご理解ください。

なお、今後においても現状の米価の動向を十分加味しながら、関係機関と連携を図り、できるだけ早期に参考賃借料を提示していきたいと考えています。

Rose & Garden 農業青年の出会い交流 イベントを開催

10月11日(土)にバラの収穫とブーケ作り、交流パーティーが行われ、積極的に交流する微笑ましい光景が見られました。その結果2組のカップルが誕生し参加者全員で祝福しました。

全国農業 新聞

農家の経営とくらしに
役立つ情報をお届けします!!

●発行日 毎週金曜日
●購読料 1か月600円



「食の都庄内」
親善大使
レストラン ロアジス
グランシェフ
太田 政宏

柳小路の魚屋さんの店先は、炭火で焼くハタハタの田楽のいいにおいが漂っていました。

ハタハタの卵のぶりこを噛みながら歩いた思い出が、よみがえります。

家庭では、湯あげ、塩焼き、田楽と、一人で何尾も食べていたものです。

30年くらい前の酒田のハタハタは、安価の部類に入る魚でありましたが、前回の「ねじり」と同様、今では高級魚の仲間入りです。

今回は、洋風の田楽をお楽しみください。



ハタハタの洋風田楽

ハタハタの洋風田楽

材料（1人前）

- ・ハタハタ……………2尾
- ・洋がらし(ムータルド)……大さじ1杯
- ・ワインビネガー……………大さじ1杯
- ・パセリのみじん切り……………少々
- ・バター……………15g
- ・塩コショウ……………少々
- ・サラダオイル……………少々
- ・小麦粉……………少々
- ・付け合わせのじゃがいも……………適量

作り方

- ① ハタハタのえらと胃袋を取り除き、塩コショウをして小麦粉を付ける。
- ② フライパンにサラダオイルを入れ両面に焼き色を付ける。
- ③ 天板にオープンシートを敷き、両面に洋がらしを塗ったハタハタをのせ、尾をアルミホイルで巻く。250℃のオーブンで約5～6分焼く。
- ④ ③を皿に盛り、ワインビネガー、パセリのみじん切りをふりかける。
- ⑤ フライパンにバターを入れ、きつね色になるまでこがし、④の上にかける。
- ⑥ 付け合わせに茹でたじゃがいもを盛り付ける。

編集 後記

昭和四十六年・一九七一年の米価が八千四八二円、農業者年金制度が始まった年である。あれから四〇有余年が経過した。

今年の米価仮渡金が、はえぬき一等米で八千五〇〇円。機械化は進み、安全性と食味の向上に取り組み、収量よりも質にこだわる農業に取り組んできて、この価格である。

エサ米栽培面積が増える中、お腹いっぱい食べることで、きない貧困家庭や生活保護世帯の増加も、社会問題として報道されている。枠を超えた国民が納得する政策を打ち出してほしいもの。

次世代に農業をつなぐには夢が必要であるが、現状は厳しすぎる。

耕作放棄地のますますの拡大や農村の共同の精神・自治体の存続にも、農業の衰退は大きくかわってくる。



(六)